

愛知県豊田市

①新盛里山耕

～ エコでおしゃれな21世紀の里山暮らし～

◆定住・移住 ◆高齢者の活躍 ◆その他(都市と農山村の交流)



年末恒例のお楽しみ耕流事業の餅つき体験



耕作放棄地が見事に蘇った農地



里山の食文化を継承する旬裁食講座

活動のきっかけ

田舎を放置し荒らしてしまった先祖伝来の山や田畑を美しい里山に再生し、次世代を担う子供や孫たちに引き継ぎたい思いから、定年退職の年齢を迎える仲間が集まって事業を開始。

活動の概要

◇農業体験等の都市住民との耕流(交流)活動を通じて、豊田市役所と協働し「空き家情報バンク制度」の啓蒙など定住促進活動を展開。

◇里山での一年の暮らしの営みを作物の栽培から食を通じて楽しみながら体験できる「旬裁食講座」、地域の農産物を使った「田舎料理講座」や「石窯活用講座」などの各種の体験講座を開催し都市住民との耕流(交流)に取り組む。

◇農業体験、地域料理体験、わら細工体験の講師として、また各種耕流(交流)活動のスタッフとして地元高齢者が活躍。

活動の成果

◇市民農園開設や企業連携による農業体験塾への活用で耕作放棄地が大幅に減少。地区の耕作放棄地は平成24年の87%から平成28年の11%に大幅に減少。

◇様々な取組を通じて地域力が高まり、ジビエ工房開設、産直市場の開設等新たな産業が発生。

◇地域住民だけでなく、外からの力を借りることで「里山」の姿が取り戻されつつあり、「人との繋がり」の中で、この地で生きていく楽しさ、生き甲斐を見いだせ、また人口増にもつながった。

問合せ先

〒444-2424 愛知県豊田市足助町宮ノ後26-2(豊田市役所足助支所)

TEL:0565-62-0601 FAX:0565-62-0606

②社会福祉法人無門福祉会

～ 自然栽培でニッポンを健康に！ ～

東海農政局選定

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆医療・福祉



地元小学生と障がい者による総合学習での田植え



農業生産法人といちごの自然栽培



ジャム加工場

活動のきっかけ

障がい者の就労支援として慣行農法を行っていたが、障がい者の賃金向上に結び付くよう、愛媛県内の福祉事業所の指導を受け、付加価値の高い自然栽培の取り組みを開始。

活動の概要

- ◇休耕地4haを借り受けて、市内の農業生産法人と連携し自然栽培で米や野菜、果樹を生産。
- ◇地元小学校の総合学習で自然栽培の米作り学習を実施。文科省の土曜学習応援団にも登録。
- ◇定年後に地域での担い手となることも視野に、地元企業と連携し、社員ボランティアの協力を受け田んぼの再生を実施。
- ◇6次産業化に取り組み、自然栽培のイチゴを使ったジャムを生産し地元スーパー等で販売。

活動の成果

- ◇休耕地の再生利用、無施肥、無農薬の自然栽培により自然環境の保存、景観の維持に寄与。
- ◇自然栽培や6次産業の取組は、手作業が多く仕事の細分化できるため、障がい者一人一人にあった作業の提供が可能となり、障がい者の働きがいにつながった。
- ◇環境に優しい自然栽培への取組は、障がい者だけでなく地域の人たちが参加し易く、小学校の学習や企業との連携にもつながった。
- ◇地域の休耕地を積極的に利用して農地を拡大する中で、地域に多くの協力者が現れ取り組みが進展し高齢者や新規就農を目指す若者の雇用につながった。

問合せ先

〒470-0376 愛知県豊田市高町東山7番地43
TEL:0565-45-7883 FAX:0565-45-7886

③榎前環境保全会

～ いつでも福祉・いつでも防災・いつでも環境 ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



水田魚道と観察水田周辺で生き物観察会



農業体験(伝統農法)稲架掛け



炊出し訓練も兼ねたイベント等での賄い

活動のきっかけ

農業者の高齢化・兼業化が進み、住民交流が希薄となり集落の維持に危機感を募らせていた中、平成14年度から「福祉」「防災」「環境」をコンセプトに町内全戸参加のふれあい活動を開始。18年度に水田魚道を設置し生き物観察会を開始、19年度には農地・水・環境向上対策の活動組織を設立し、子どもから大人まで集落全体で活動を推進。

活動の概要

- ◇水田に魚道を設置し、魚道観察会を6～9月に年20回開催。生協と協同開催の「生きもの観察会」には地域内外の子ども連れ家族が参加し、生物の多様性を学ぶ機会を提供。
- ◇手植えの田植え、鎌での稲刈り、足踏み脱穀機など、昔の農機具を使った農業体験を実施。
- ◇収穫祭では、農家の女性達の指導で、子供たちが育てた農産物を母親達が炊き出し。
- ◇水田で減農薬50%に取り組み収穫された米を「どじょうこ米」として販売。

活動の成果

- ◇生き物観察会等へ子どもから大人まで参加し、地域自然環境の素晴らしさが再認識され環境保全活動への理解が深まっている。
- ◇昔の農業体験を通じ、子どもたちへ農業や環境の大切さと地域や農業への理解が深まる。
- ◇地域農産物による炊き出や非常食の調理体験によって、地域農業への理解と地域住民同士の交流の広がり、防災活動の一環としての非常時連携にも寄与。
- ◇「どじょうの育み米」のブランド化による消費者との交流で地域農業の活性化が図られた。

問合せ先

〒444-1214 愛知県安城市榎前町北榎14番地1

TEL:0566-92-0071 FAX:0566-92-0071

④明治用水土地改良区

第4回選定

～「疏通千里・利澤萬世」いのちの水、明治用水～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆女性の活躍



管内小学生向けの水のかんきょう楽校実施



水源かん養林保全活動の実施



女性部による食育イベント実施

活動のきっかけ

1世紀以上前から、地域の発展の礎となっている明治用水をとおして「水」、「農」、「食」、「環境」について楽しんで学べる機会を提供し、次世代を担う子どもたちに農業用水の大切さなどを伝える教育活動を開始。

活動の概要

- ◇1世紀にわたる上流の水源林を守る活動や、水質の保全・監視を継続して実施。
- ◇水をテーマに、明治用水を通じて地域の歴史や農業・農村の役割、水源かん養林の働きを楽しく学べる「水のかんきょう楽校(学校)」を通年開催。
- ◇明治用水女性部を中心に、水・農・食・環境をテーマに親子体験イベントを開催。
- ◇地域住民とパートナーシップを図るため各種団体と連携し、桜鑑賞会、ホタルの放流、田植え、稲刈り、餅つき等のイベントを実施。水路の上部をサイクリングロードや遊歩道等に整備。

活動の成果

- ◇明治41年から続く造林事業で、水源かん養林を543ha所有、森林保全活動実習や体験に活用。
- ◇水を作り、水を守る活動の継続が地域の農業発展のみならず工業用水への利用等で地域の産業発展に大きく寄与。
- ◇体験プログラムやイベントには年間2,000人を超える参加者があり、食育や環境学習に貢献。
- ◇地域住民や各種団体との連携した活動や遊歩道等の整備などの地域貢献を継続することで、明治用水が地域の重要な財産として伝承。

問合せ先

〒446-0065 愛知県安城市大東町22-6(総務課)
TEL:0566-76-6241(代表) FAX:0566-75-7944

⑤有限会社デイリーファーム

～ 安全・安心・おいしい卵 6次産業化でPR ～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



ココテラス外観



耕畜連携・食育などの地域交流



自社のたまごをつかった
シフォンケーキとカステラ

活動のきっかけ

「安心・安全」「地域農業の振興」を掲げ、付加価値の高い「あいちの米たまご」を生産してきたが、うまく消費者に認知してもらえないことが課題であった。そこで卵の良さや、生産への思いなどが伝わるよう、平成27年から加工品販売と生みたて卵の直売事業を始める。

活動の概要

- ◇たまごの品質の高さを知ってもらうため、洋菓子店「ココテラス」を平成27年にオープンし、たまごのうま味を全面に出した味わいのカステラ、プリン、新鮮な生卵等を販売。
- ◇イチゴ生産農家と連携し、新商品「いちごのロールケーキ」を開発・販売。
- ◇地域の稲作農家を後押しするため、自社のケイフンで作ったたい肥を提供し、飼料米を生産してもらうことで、循環型農業を実践。
- ◇食育の取組として、農場見学や契約米農家のほ場見学、ココテラスの試食会も兼ねた消費者との交流会を実施。

活動の成果

- ◇ココテラスが開店して、予想を上回る年間約10万人が来店。現在、社員3名、パート16名で運営し、地元の雇用にも貢献。
- ◇イチゴ生産農家からは、傷みの早いイチゴの安定した販売先が確保できたと喜ばれている。
- ◇ココテラスでの販売を通じて当社のたまごの認知度が上がり、加工品の生産はもちろん、たまご生産農場でも社員のやりがいにつながっている。

問合せ先

〒479-0806 愛知県常滑市大谷字芦狭間5番地
TEL:0569-37-0072 FAX:0569-37-0256

⑥宮田用水土地改良区

～「田んぼもみんなの大切な教室！」小学生への環境学習会～

◆子ども(教育・体験)



出前授業(座学)を開催



タモ網を使った生きものの調査



水路の流速調査

活動のきっかけ

『田んぼの生きもの調査』を平成15年に管内小学校と一緒に実施したことを契機に毎年実施。平成21年に田んぼの生きもの調査が廃止後、平成22年からは農業や環境に対する意識を子供たちにもってもらうため、土地改良区独自の取り組みとして継続して実施している。

活動の概要

◇本土地改良区管内の小学生を対象に、農業農村が持っている農産物の生産だけではない『多面的機能』や、用水路や田んぼがあることで保たれている『生物の多様性』について理解を深めてもらうため、実施場所に合わせて、スライドとクイズ形式の『出前授業』や、身近にある田んぼや農業用排水路などにどれだけの生物が生息しているかを、実際に子供たち自らがタモ網等で捕って同定する『環境学習会(野外授業)』を組み合わせた取り組みを実施している。

活動の成果

◇小学4年生を対象にしているため、配布したパンフレット・生きものを記載した下敷き、出前授業や生きもの調査などから、家族間でのコミュニケーションにおいて土地改良区等の役割や必要性などが少しずつ浸透している。

◇身近な生物やそれを育む農業・農村の多面的な機能などまったく知らない小学生もいるが、環境学習会を実施することで理解が深められ、子供の豊かな感情や地域に対する愛着が醸成されている。

問合せ先

〒492-8211 愛知県稲沢市稲沢町北山178
TEL:0587-32-4151 FAX:0587-21-7027

⑦つくでスマイル推進協議会

～ 地域再生「思い出のあの場所にもう一度命を」～

◆ジビエ ◆「食」の提供・活用 ◆女性の活躍



旧菅守小学校跡地全景



つくで田舎レストランすがもり



ピザ作り体験

活動のきっかけ

平成25年3月末に小学校統廃合により、地域コミュニティーの中心であった菅守小学校が閉校。地域が疲弊し、地域コミュニティーの減退を懸念する住民の声がかき付けとなり、平成26年4月に廃校を交流拠点として地域活動組織として発足。

活動の概要

- ◇学校給食の調理員の経験を持つ女性が3名が、廃校となった小学校のランチルームを利用して週末営業の農家レストラン「つくで田舎レストラン・すがもり」を平成26年にオープン。
- ◇施設周辺全体を里山博物館と見立て、木工体験、ピザ体験、森林観察会、ノルディックウォーキング、炭焼き体験など各種体験を実施イベントを開催。
- ◇地域の小さな話題を地域住民47名(16歳～67歳)が自らライターとなって発信するサイト「つくでスマイル」を立上げ情報を発信。

活動の成果

- ◇農家レストランでは、地域おこし協力隊の女性と協力してメニューを開発、ジビエを利用した鹿肉のハンバーグ、特産のトマト、自然落、川魚のアマゴなど地域食材を使用した健康・安全・安心な食を提供し、平成28年は約3,600人が利用し地域を活性化に寄与。
- ◇平成28年に道の駅「つくで手作り村」に軽食店「スマイルカフェ」を開店、年間約2,000人が利用。
- ◇各種体験イベントの開催により、都市住民との交流が活性化。
- ◇平成29年より、地元で採れたハウレンソウを乾燥し、粉末にした商品の開発に取り組む。

問合せ先

〒441-1423 愛知県新城市作手高里字縄手上28-1
TEL:0536-37-2269 FAX:0536-37-2284